

今回は、緑区の市立さくら草特別支援学校の取組を御紹介します。

さくら草特別支援学校では、「ノーマライゼーション社会において、もてる力を発揮し、共に生きる子どもを育てる」を学校教育目標として、様々な交流活動に取り組んでいます。



【今日も元気にこんにちは】

〈近隣地域の方々との交流 —児童生徒によるお手紙配り—〉

児童生徒が学校周辺のお宅を定期的に訪問し、学校だより等のお手紙を直接お届けする教育活動「さくら草タイム」を展開しています。訪問時は、成長ぶりを喜んでいただき励ましの言葉をいただくなど、温かく微笑ましい交流活動となっています。児童生徒一人ひとりがそれぞれ得意な方法でコミュニケーションを楽しむ大切な機会となっています。開校当初から取り組んできた訪問活動を通じて、教育活動への支援体制が深まり、学校応援団の輪が広がってきており、特別支援教育の理解啓発にもつながっています。

〈ボランティアの方々と挿し木 —オリーブプロジェクト—〉

東日本大震災発生直後に開校し、創立10周年を迎える肢体不自由の特別支援学校です。震災からの復興を願い、高等部の生徒が中心となって、福島県いわき市の地域活性化事業「オリーブプロジェクト」に協力するため、校内でオリーブの苗木を育て現地に届けています。地域のボランティアの方々とともに挿し木の作業に取り組み、その後、教室のベランダに置き、車いすで世話をしながらオリーブを見守り成長を共に喜んでいます。高等部修学旅行では、現地を訪問してオリーブの苗木を通したふれあい交流を継続してきました。



【早く、大きくなーれ】



【館岩の雪で自然の教室】

〈南会津町からの雪のプレゼント —雪の滑り台遊び—〉

毎年、2月に南会津町館岩のたかつえスキー場の雪が届きます。町やスキー場関係者の方々、さくら草特別支援学校の児童生徒にも自然体験をさせてあげたいとの思いから実現した体験交流です。大学生や地域のボランティアの支援を受けて雪の滑り台を造り、冷たい雪に触れながらソリ遊びを楽しんでいます。スキーウェアに毛糸の帽子、防寒手袋といった装いで、つかの間ですが冬の自然体験が繰り広げられています。周辺地域の皆様との交流に加え、広範囲な応援団に支えられ、年間を通じて豊かな教育活動が展開されています。

さくら草特別支援学校の取組からは、様々な体験を通じ、子どもたちが心豊かにはぐくまれている様子はもちろん、学校を応援してくれる方々にとっても、ノーマライゼーション社会について理解を深めるきっかけとなっている様子が伺えます。